

## 海外赴任者研修では何が求められているのか

勝田吉彰

関西福祉大学

**要 旨**：近年，発展途上国への赴任が増えるとともに，海外赴任者研修のなかに渡航医学分野の内容が取り入れられているが，赴任者からどのような内容が求められているのかニーズを吸い上げたものはない．筆者が定期的に担当している国際交流基金日本語パートナーズ派遣前研修において，毎回独自アンケートを実施したので報告する．研修内容で特に役立ったものとして「飲食の注意」「蚊媒介性疾患」「狂犬病」といったリスクを認識しやすいものや「情報収集法」の具体的ノウハウ提供があり，これは赴任中不安に思う疾患・事故に「旅行者下痢症」「食中毒」「 Dengue熱」が上位にあげられることとも合致した．反面，メンタルヘルス関連や馴染みのない感染症に対する関心は低かった．さらに，「赴任地に特化した情報」が求められる傾向にあった．

**キーワード**：海外赴任者研修，リスクコミュニケーション

### はじめに

グローバル化が進展するなかで，海外赴任者の赴任先は多様化の一途をたどり，なかでもアジアの発展途上国への赴任が増えている<sup>1)</sup>．これは保健衛生環境の問題がある地域へ赴任者を送り出すこととなり，海外赴任者研修のなかで渡航医学分野の内容が取り入れられている．しかし実際にその内容についてクライアントたる赴任者の側からどのような内容が求められているのか渡航医学関係者から高い関心が向けられているとは必ずしもいえない．主として産業保健分野から海外派遣前研修に際して，実際に企業で話している内容<sup>2,3)</sup>，法的責任から盛り込むべき内容<sup>4)</sup>について報告があり，また，海外駐在員の電話相談ラインにおける相談内容分析から求められる情報を明らかにしたもの<sup>5)</sup>があるが，研修の実施直後にクライアントの側にアンケートをとりニーズを吸い上げた報告はない．

筆者は2014年からスタートした国際交流基金 日本語パートナーズプログラムにて，派遣前研修のうち健康管理の部分を担当している．このなかで，研修の品質向上を目的に毎回の研修直後にアンケート調査を行い，研修内容の改良を行っている．このアンケート結果から，

海外赴任者がどのような情報を求めているのか，情報のニーズ的な知見が得られたので報告する．

### I. 国際交流基金日本語パートナーズ概要と研修制度

本制度は2014年から開始された，東南アジア諸国に派遣されるボランティア制度である<sup>6)</sup>．派遣国においては学校(小中高大)に所属し，日本語教師助手を務めたり，日本文化の広報にあたる．国際協力機構(JICA)が運営する青年海外協力隊やシニアボランティアプログラムの国際交流基金版ともいうべきもので，実際に制度設計において協力を得ているが，種目は日本語教育関連に限られている．募集年齢は20～69歳，派遣期間は通常6か月～1年で，本稿執筆時点における派遣実績国はインドネシア・シンガポール・タイ・ブルネイ・ベトナム・マレーシア・ミャンマーである．派遣は期間中を通じて単身での渡航となり，住居は国際交流基金からあてがわれる指定宿舎，職場は学校現場に限られ交際範囲が現地の教師や生徒中心になる等，一般企業の赴任者に比べてより現地社会に近い環境となる．

派遣前研修は同基金の研修施設にて1か月間，泊まり込みで行われる．研修内容は健康管理・メンタルヘルスのほか，語学(現地語)・日本語教授法・日本文化・現地文化・安全管理・情報発信・グループワークなどとなる．筆者はこのなかで健康管理の部分を担当し，50分×2コマの渡航医学の講義および希望者に対する個別相談を行っている．

連絡先：勝田吉彰 関西福祉大学  
〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3  
TEL: 0791-46-2525 FAX: 0791-46-2526  
E-mail: katsuda@tkk.att.ne.jp

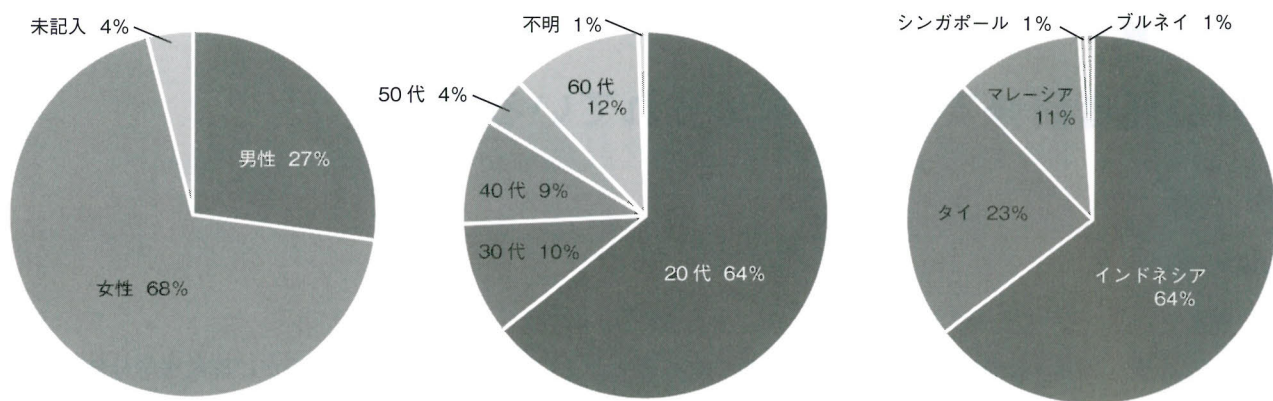


図1 回答者の性別・年齢層・派遣国 (n = 171)

**研修講義アンケート (医療分野)**

本日は研修、お疲れさまでした。  
今後の研修の品質向上のため、アンケートに少々お時間をいただくと幸いです。

赴任国 ( )  
年齢 20代 30代 40代 50代 60代  
性別 男性 女性

I. 本日の講義で、役立った/印象に残るのはどの分野ですか? (複数回答可)  
1) 食料(飲料)の注意 2) 蚊により媒介される病気 3) 破傷風 4) 狂犬病  
5) 性行為感染症 6) インフルエンザ 7) MERS 8) 情報収集 (サイト紹介)

II. 本日の講義で、違和感を感じた部分があれば書いてください。  
(そんな事出来るわけない/自分の経験ではこうだった/etc)

III. 赴任中、自分が不安に思う疾患・事故があれば○をつけてください。  
(複数回答可)  
1) 旅行者下痢症 2) 食中毒 3) A型肝炎 4) B型肝炎 5) デング熱  
6) チクングニヤ熱 7) マラリア 8) 鳥インフルエンザ 9) 狂犬病  
10) 破傷風 11) 髄膜炎 12) 性行為感染症  
13) その他の感染症 ( )  
14) アルコール依存症 15) うつ病 16) その他のメンタル問題 ( )  
17) 交通事故 18) 犯罪被害 19) まったくない

IV. もっと他にこんな事を知りたい等、希望があれば書いてください。

ご協力ありがとうございました。

図2 質問紙

## II. アンケート調査

研修担当者の了解および協力を得て、研修の品質向上を目的に独自の講義後アンケートを行っている。毎回、講義時に配布し終了後の休み時間に回収、回収率100%である。

対象者は2015年3月以降に実施され筆者が担当した以下の期全員 (n = 171) である。

タイ 2期	2015.3.11 実施
インドネシア 4期	2015.8.12 実施
シンガポール 1期	2015.8.12 実施
マレーシア 3期	2015.11.24 実施

ブルネイ 1期	2015.11.24 実施
インドネシア 5期	2016.3.7 実施

性別・年齢層・派遣国を図1に示す。性別は女性が68%を占め、年齢層は20歳代が64%と過半数を占め、30・40・50歳代が10%前後で近接している。派遣国はインドネシアが64%で最多、タイ・マレーシアと続くが、その他はわずかである。

質問紙を図2に示す。

## III. 結果と考察

研修の中で役立った/印象に残った部分を図3に示す。「蚊媒介疾患」と「飲食の注意」が高値を示し、「狂犬病」と「情報収集法」が次いだ。対して「インフルエンザ」「性行為感染症」「MERS」を選択した数は少なかった。「飲食の注意」については旅行者下痢症をはじめ普遍的にリスクの高いものであること、「蚊媒介疾患」については、特にデング熱がこれから赴く任地で流行していること、また、日本国内においても2014年のデング熱国内感染報道や2016年のジカ熱報道で感心が高まっていたことも関連すると思われる。「狂犬病」については筆者がミャンマーで撮影したりリアルな画像を提示したこと、「情報収集法」については、当プログラムの性格上、海外志向の強い人々が応募し採用されており、当プログラムによる派遣終了後も様々な機会をとらえて海外に渡航するモチベーションの高いことが要因と思われた。対して「インフルエンザ」「MERS」に関しては研修時点で報道が下火になって時間が経つことが選択の少なかったことにつながっていると思われる。「性行為感染症」については研修中強調した部分であるにもかかわらず選択は少なく、他人事と認識されていると推測される。

図4に、赴任中不安に思う疾患・事故を示す。「旅行者下痢症」「食中毒」「デング熱」が多いのはリスクが



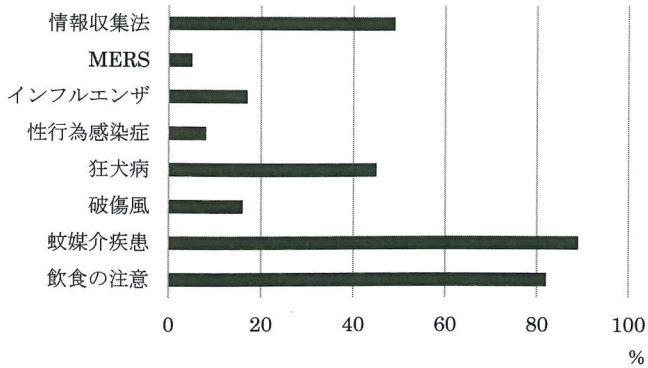


図3 研修内容で役立った/印象の残る部分 (複数回答)

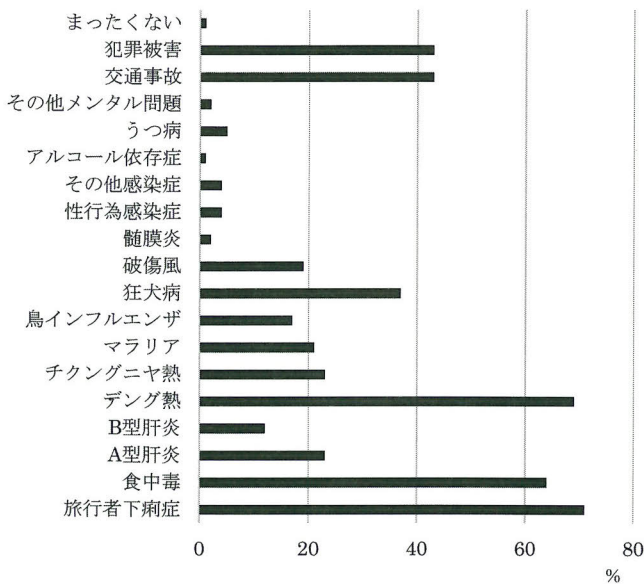


図4 赴任中不安に思う疾患・事故 (複数回答)

イメージしやすいためと思われる。「犯罪被害」「交通事故」が比較的高いのも、赴任先が必ずしも治安が良くないこと、交通マナーの悪さなどが知られているためと思われる。対して、「うつ」「アルコール依存症」などメンタル関連はほとんど選択されなかった。異文化ストレスによるメンタル不調など、プログラムへ自主的応募しモチベーションが高く、メンタル不調に罹ることを派遣前時点でイメージしにくいものと思われる。感染症でもMERS・チクングニヤ・破傷風など報道で耳にすることが少なく馴染みのないものは選択が少なかった。

次に自由記入欄の記入内容から考察する。要望の部分を図5に示す。「赴任国の病院 (写真含む)」「赴任国に特化した情報」についての要望が当初目立った。当初、「魚を与えるより魚の釣り方を教える」方針で、現地に特化した情報をそのまま伝えるよりも、情報収集のノウハウを伝えることに重点を置いてサイトの使い方の説明に重点を置いたが、それに対する評判は良くなく、手取り足

- 赴任国の病院の様子がわかる写真がもっとあればよりイメージしやすいと思いました。
- 日本から持ってゆくとよい薬のおすすめがあれば、説明に追加していただけると参考になるかもしないと思いました。
- 常備薬の現地調達はどうすればよいか？
- 家の中で気をつけること、食べるときに気をつけること (皿やコップなど)、道端で気をつけることとか、生活に分類した方がイメージしやすいと思った。
- 自分の身を守る方法、身近なものを使って防げる方法があれば知りたかったです。
- 肩こり・頭痛などがあるので海外生活での体のメンテナンスについての紹介もあれば知りたいです。
- タイにもっと特化した事例 (特に地方部) を紹介してほしい。

図5 研修内容に対する要望 (自由記述)

- 現地の人達から好意で呼ばれて食事を提供してもらった時にどこまで断れるのか少し心配です。
- 水を食べたり氷入りのジュースを飲んでも大丈夫でした (インドネシア)。
- 日本の厚労省の帰省を大幅に上回る DEET を含む海外製の虫よけ剤を使って皮膚に悪影響が無いのか不安がある。
- 12%以上の虫よけは肌に悪いことはないのか？ (肌が弱いのですが)
- 情報が単純すぎる。もう既に知っている事がほとんどであった。
- 蚊については特に気を付けずにここ数年暮らしてきたが、ベトナムでは刺されないように注意しなければならないのかとちょっと違和感を感じた。

図6 研修内容で感じた違和感 (自由記述)

取りの情報提供に対する要望が目立った。この点について、疾患については (派遣国間で種類は大差ないものの) 各赴任国の国旗を埋め込んで特有感を出したスライドを用意し、医療機関については外務省世界の医療事情 HP の該当国の頁をプリントアウトして配布して、赴任国における実際の医療機関の住所や連絡先を提供するなどの工夫により同種の記入はなくなり、満足度の向上につながった。この傾向は「蚊取り線香はいくつ持っているのが良いか」「どの常備薬を持っていけばよいか」「常備薬の現地調達 (〇〇国で市販されている薬)」「〇〇国で売っている虫よけ」などの情報への要請にも現れ、それぞれ可能な限り対応している。「家の中、食べる時、道端で気をつけることなど、生活場面で分類した提示」は目から鱗の提案であり、今回の研修から取り入れている。なお、中高年の一部からは持病や肩こりなどの情報要請があるが、これらは講義後に設けられている個別相談の時間に対応行っている。

- より実践的な対処法を教えてくださいとでも参考になりました。
- 薬の選び方、行くべき症状、タイミングが選べて勉強になりました。医療機関の情報が参考になりました。さらに言えば、どのように選ぶか、どのように日本と違うか、かかる際の注意も聞けたらと思いました。
- リアルな写真に訴求力があつた。
- 情報収集の一覧はとても参考になります。事前に情報を収集してから現地へ行きたいです。
- なにごとも、知らなければ予防することもむずかしいと思うので、自分から情報を収集することが大切だと思いました。
- 蚊の対策が具体的（スプレー、水をためないなど）で、現地でも役立てようと思いました。
- 個人的に蚊と狂犬病について知りたいと思っていたので詳しくお話しして頂けて勉強になりました。ありがとうございました。
- シトロネラのスプレーは愛用してありますが効き目うすいなと思っていました。納得しました。タイガーバームもあまり効き目ないのでしょうか？
- 蚊対策のお話が参考になりました。今日はどうもありがとうございました。
- ベトナムは大気汚染が深刻なのでPM2.5対策、自衛策などあれば知りたい。
- 盛り沢山でとてもためになりました。ありがとうございました。

図7 その他自由記述

研修のなかで感じた違和感を図6に示す。「学校の教師や生徒など現地の人間と交流するなかで、あるいは地方赴任のため、食事の選択がしにくい場面」など、食の対策に対しての不安が記述された。プログラムの性格からこれはある程度避けられない点であるが、しかし、原則論として意識を持ち続けるように強調はすべきであろう。デング・チクングニヤ・ジカに対する蚊対策は時間を割いている部分であるが（研修・執筆時点で）、日本国内で認可されていた12%以下のDEETでは持続時間が短いことを理由に現地購入の高濃度DEETを勧めた点について、日本の厚労省基準を上回ることに對する不安の表明もあり、それに対しては実際に筆者が使用している海外製を供覧したりデモンストレーションしたり工夫を行っている。記述自体は1例のみであるが「情報が単純すぎる。もう既に知っていることがほとんどであった」との記述にはがっかりさせられたが、派遣者の幅が広く、対象者に学生から海外駐在員定年退職者まで含まれる難しさを感じた。初めての海外長期滞在となる層にメインターゲットを置くことは変えないながら、研修の中に「アドバンス編」として一部、10分間程度を上限として、渡航医学会で発表レベルの内容をかみ砕いて入れ

#### <疾患・環境>

- 消化器疾患（旅行者下痢症・食中毒・その他経口感染症）
- 蚊によって媒介される疾患（デング・ジカ・チクングニヤ）
- ウイルス性肝炎（各型）
- 破傷風
- 狂犬病
- 大気汚染の情報と対策
- 生活場面ごとのリスク（食事・野外活動・人ごみ）
- 現地医療機関の利用法・注意点

#### <準備>

- トラベルワクチン
- 常備薬（日本から持参するもの・現地で購入できるもの）

#### <情報収集のしかた>

- 外務省医療情報
- 検疫所 Forth
- 英語サイト（米CDC・英Fit for Travel）

\* 赴任地各国ごとに特化した情報が求められる

図8 海外赴任者研修に盛り込むことが推奨される内容

る試みを行っているが、それに対する抵抗は見られず意外に好評のようである。その他自由記入欄への記述を図7に示す。記述された意見に対応し内容の改善を重ねるにつれ、自由記入欄には好意的記述がほとんどを占めるようになり本アンケートの目的を達成しつつある。

以上より、海外赴任者研修にあたり、最低限盛り込むことが望ましいと思われる内容を図8に示した。対象者の年齢層、モチベーション、派遣形態によっては、これに生活習慣病、メンタルヘルス、歯科等を加えるのもよいであろう。

## IV. まとめ

国際交流基金日本語パートナーズ派遣前研修後に実施したアンケート調査の結果から、海外赴任者研修に求められるものを調査した。結果、任地に特化した具体的な情報に対するニーズが高いことが分かった。これは医療機関情報のみならず、現地に持参すべき（あるいは現地で購入できる）医薬品の情報についても当てはまった。一方で、日本の厚労省基準外のものについては、たとえ効果のすぐれたものであっても不安を感じる場合もあり丁寧な説明の必要がある。

本論文が、海外赴任者研修を担当する各位の参考になれば幸いである。

## 謝 辞

本アンケートに協力いただいた国際交流基金関西国際センター関係者の皆様にお礼申し上げます。



なお、本調査の機会を得た研修の内容には、科研費（課題番号 15K09877）によって得られた知見も含めています。

## 文 献

- 1) 外務省海外在留邦人数調査統計. <<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000162700.pdf>> (2016年9月15日アクセス)
- 2) 中西一郎. 東レ(株)における海外勤務者の健康管理～赴任前から帰国後に至るまでの管理体制～. 安全と健康 2007; 8: 872-5.
- 3) 土肥誠太郎. 海外赴任者の健康管理～現状と課題～. 安全と健康 2007; 8: 857-60.
- 4) 木村恵子. 海外赴任者の健康問題と企業の法的責任. 2007; 8: 29-31.
- 5) 鴨下和子, 加藤瑞子, 稲村 博. 海外邦人駐在員の健康電話相談に関する分析—健康電話相談「海外ヘルシーダイヤル」の活動報告—. 日本公衆衛生誌 1998; 44: 450-63.
- 6) 国際交流基金日本語パートナーズ. <<http://jfac.jp/partners/>> (2016年9月15日アクセス)  
(2016年9月20日受付, 2017年5月23日受理)